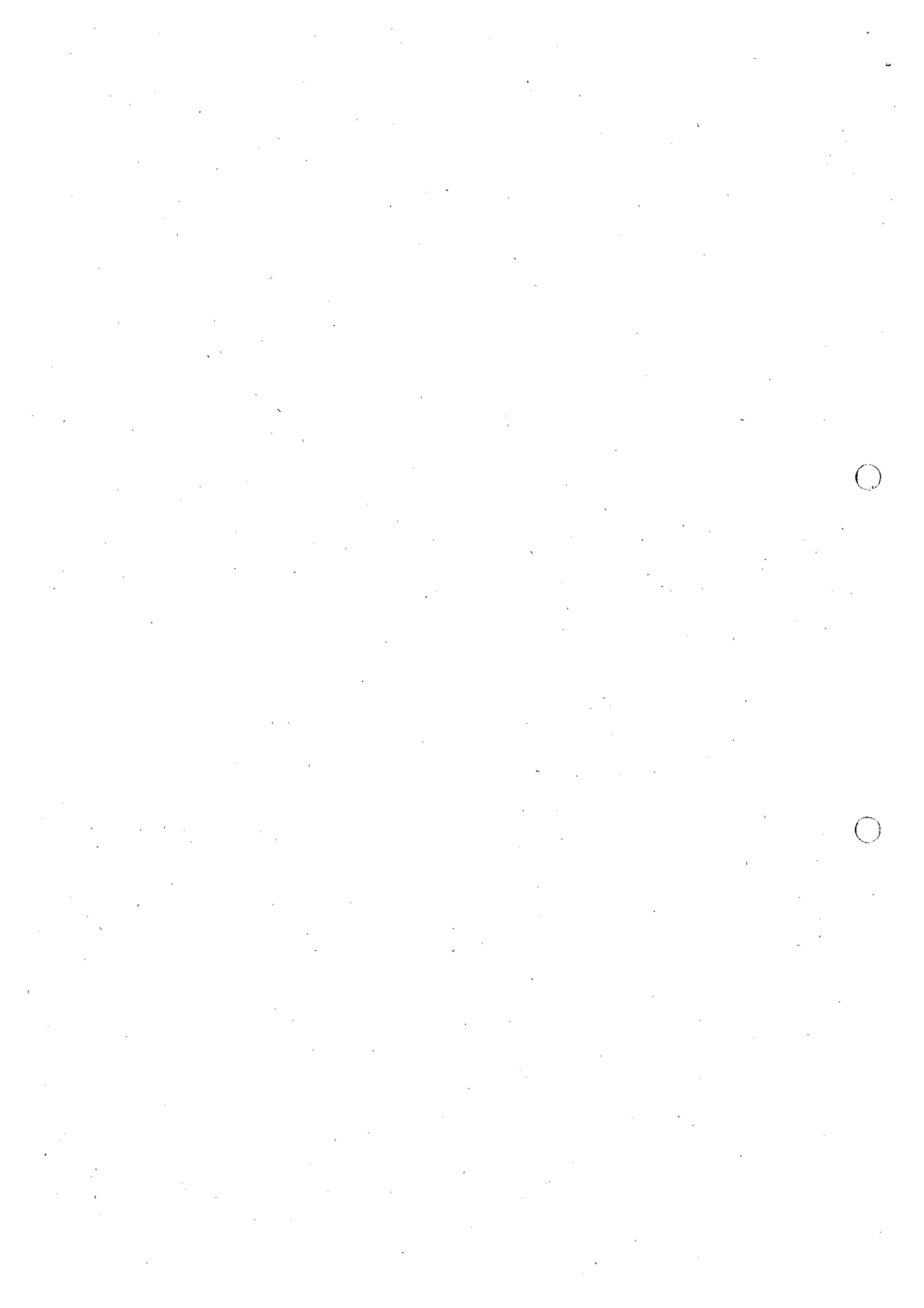


森林機能再生重点地域の 森林整備方針について

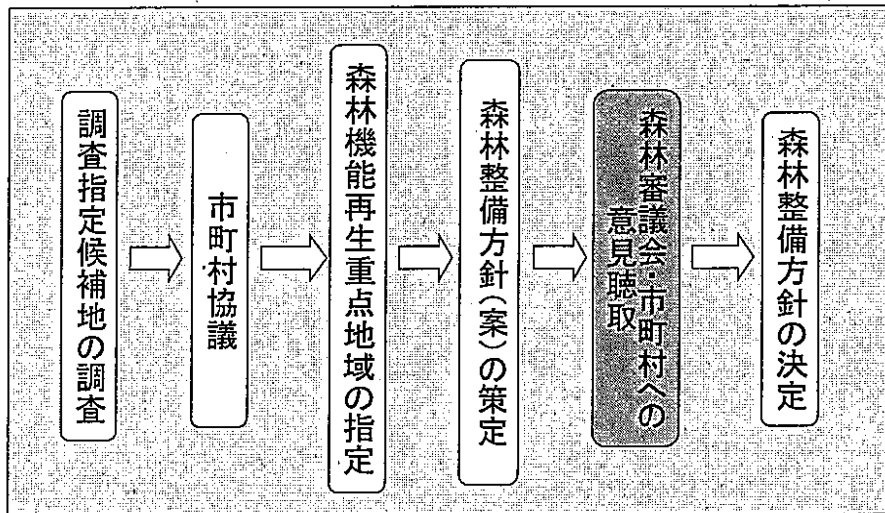


森林機能再生重点地域の 森林整備方針について

森林機能再生重点地域について

- ◆ 防災等の観点から重要度が高い地域を「森林機能再生重点地域」として指定し、放置森林対策を重点的に推進します。
- ◆ 重点地域内の放置森林について、府が森林整備の方針を定めます。
- ◆ 森林整備方針を定めるにあたっては森林審議会・市町村長の意見を聴きます。
- ◆ 森林整備方針に従い助成事業による間伐の実施など、公的関与による森林整備を優先的に実施します。

森林整備方針策定のフロー



森林機能再生重点地域整備共通方針について

- ◆急傾斜、高齢林については公的関与にて間伐を実施
- ◆間伐材搬出等のため、等高線の緩い箇所等の地形条件に合わせ路網整備を実施
- ◆路網周辺の間伐材については搬出する

24年度森林機能再生重点地域森林整備方針(案)策定一覽

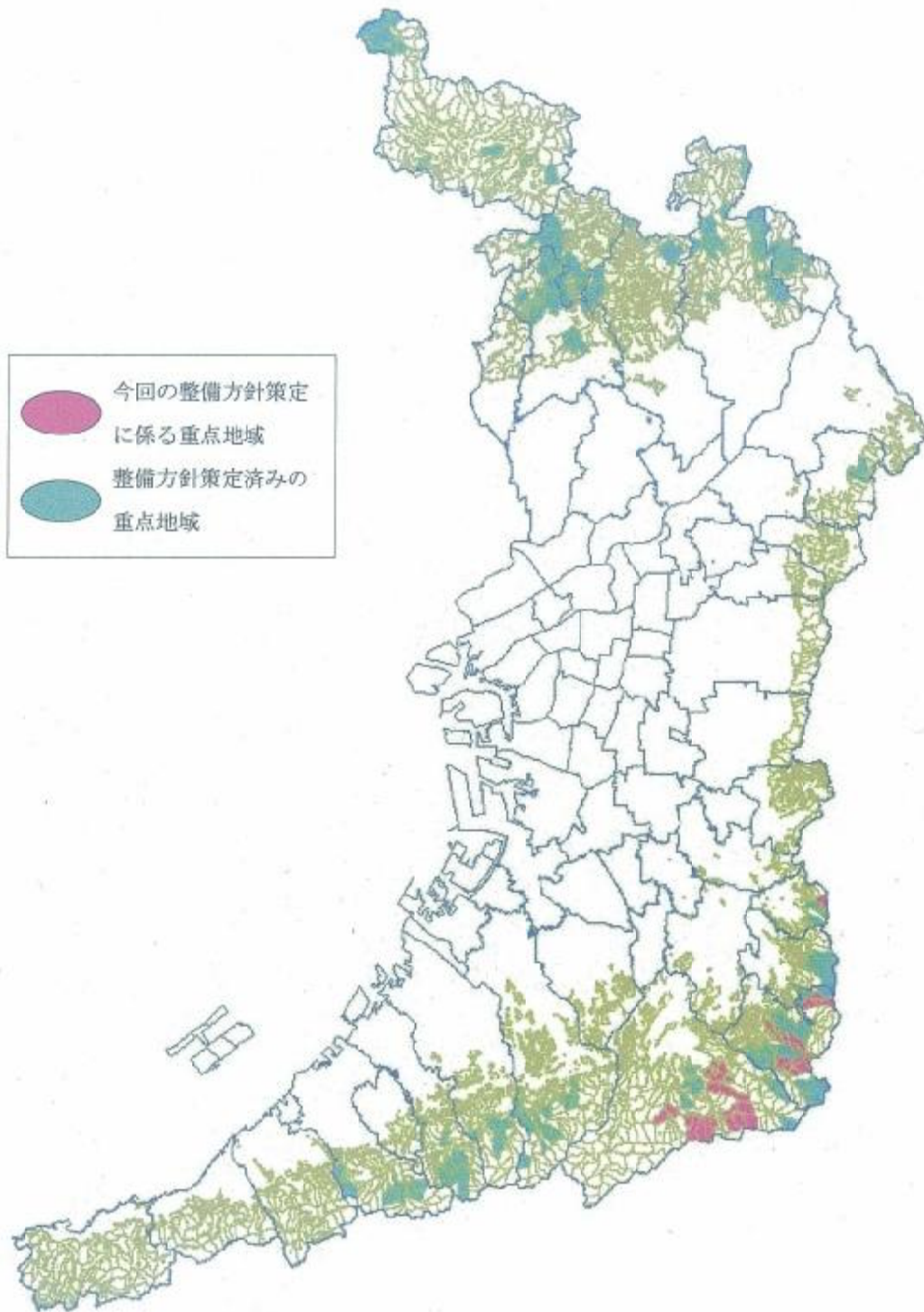
番号	市	地区(大字)	林班名	区域面積(ha)
①	千早赤阪村	水分	5, 6, 7	140
②		水分・桐山ほか	21, 22, 23, 24	242
③		千早	40, 41, 42, 43, 44	242
④	太子町	山田	16	40
⑤	河内長野市	岩瀬・神ヶ丘	A1, A2, A3, W33, W34	150
⑥		岩瀬	A5, A6, A7	140
⑦		天見(島の谷)	A11, A12, A13, A14, A15	320
⑧		天見(流谷)	A19, A20, A21, A22, A23	330
⑨		加賀田	G7, G14	100
合計				1,704

【参 考】

森林機能再生重点地域の森林整備方針策定実績

年度	重点区域箇所数	重点区域面積(ha)	備 考
H20年度	8	432	
H21年度	20	2,143	
H22年度	34	3,237	
H23年度	29	2,421	
H24年度	1	12	H24.1月末時点
計	92	8,245	

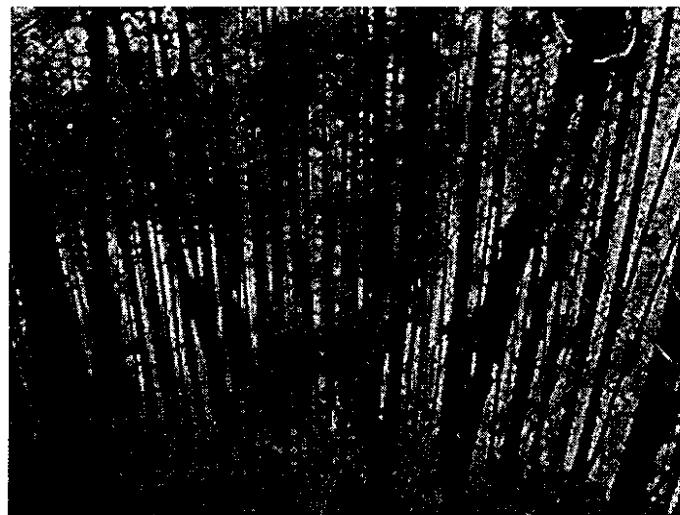
森林機能再生重点地域の指定状況



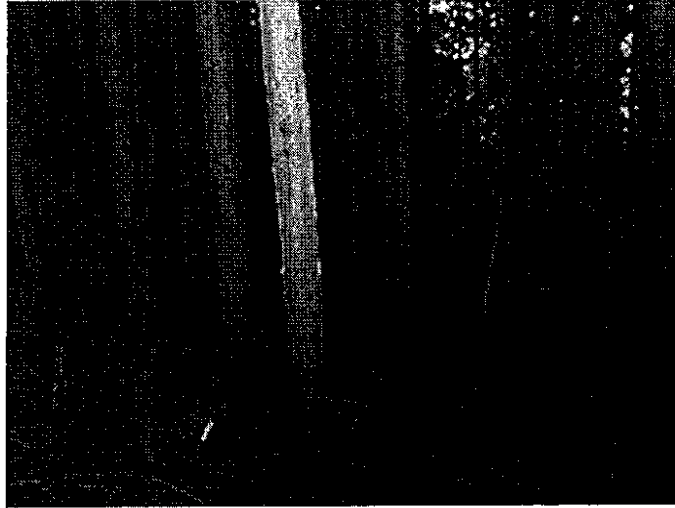
河内長野市天見(放置された人工林)



千早赤阪村水分(放置された人工林)



千早赤阪村千早(放置された人工林)



路網を活用した材の搬出イメージ



番 号	1
市町村名	千早赤阪村
地区名	水分
指定年月日	平成24年3月28日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大 阪 府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 千早赤阪村水分
- ・林班名 5, 6, 7 林班
- ・区域面積 約140ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況 (主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など)
 - ・ 山頂より伸びる主尾根を南限に、北は概ね林道ウスイ谷線までを範囲とし、大和葛城山の西斜面に当たっている。区域のほぼ全面がスギ・ヒノキの人工林で、一部の風倒跡地が二次林化し、下流には竹林の侵入も見られる。
 - ・ 人工林の大部分が高齢級のスギ・ヒノキで、過去には丁寧に手入れされていたと思われるが、近年の木材価格の低迷により放置林化が進んでいる。特に平成10年の台風被害の爪痕が未だ大きく残り、大きな谷には風倒木が放置されたままとなっている。林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。
- ・地形特性 (標高、傾斜、方位 など)
 - 標高約 320m～940m
 - 南西～北向き斜面
 - 傾斜 30～45° 程度
- ・周辺状況 (集落・道路への近接度 など)
 - 大和葛城山のほぼ山頂から西側の山塊に当たり、上部は林道ウスイ谷線及び支線が網の目のように通っている。林道ウスイ谷線から国道を利用して材の搬出が可能である。途中広域農道を経て30分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
- ・地域指定等の状況 (公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など)
 - 公園：あり 近緑：あり 保安林：一部あり 山災危険地区：あり
 - 森林機能評価：水土保持林

2 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に3～18 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっている。木の成長は比較的良いが、近年手入れが十分されておらず、林内が暗く下層植生も乏しい箇所が多く、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

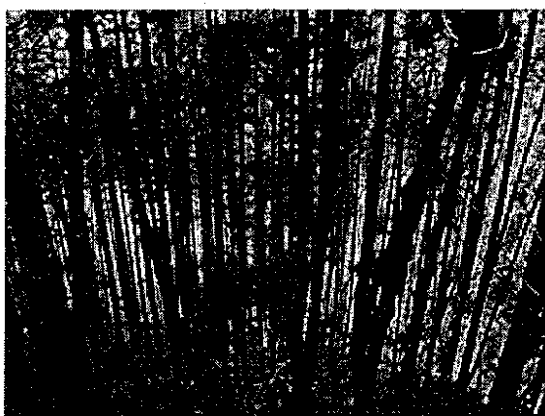
① 森林整備の基本的な考え方

- ・林道ウスイ谷線沿いはかつては良好に管理されていたが、一部補助造林事業により細々と施業が続いている他は、放置され荒廃しつつある。現在は主に小径材が搬出されているが、林分は成熟しつつあり、手入れによって大径材生産が可能である。
- ・下流には集落があるため、急傾斜の山地を保全し、山地災害の防止と木材生産機能の両立を目的として、スギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。

② 森林整備の推進方策

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業等の造林補助金や公的事業を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真

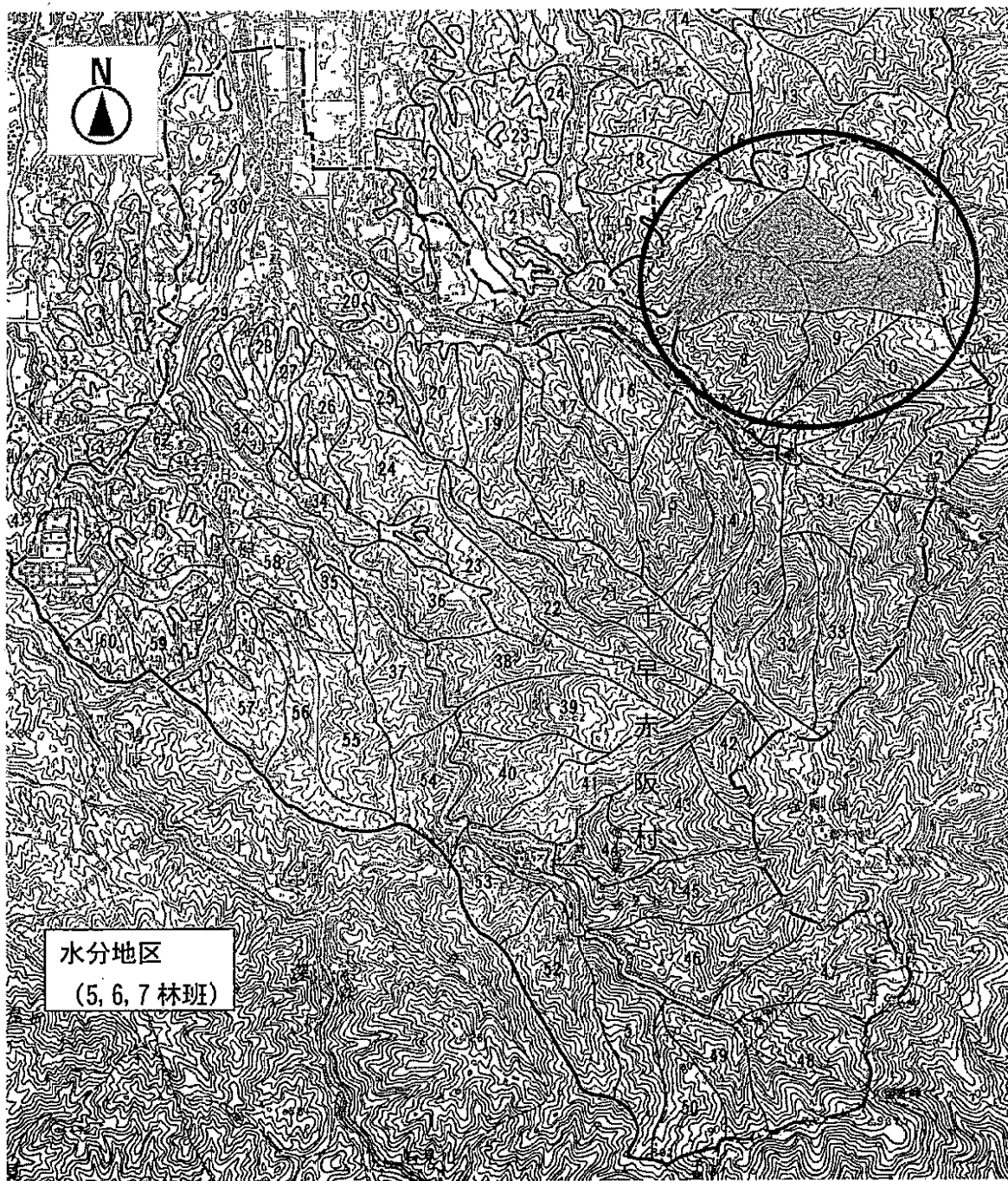


(添付図面)

○位置図

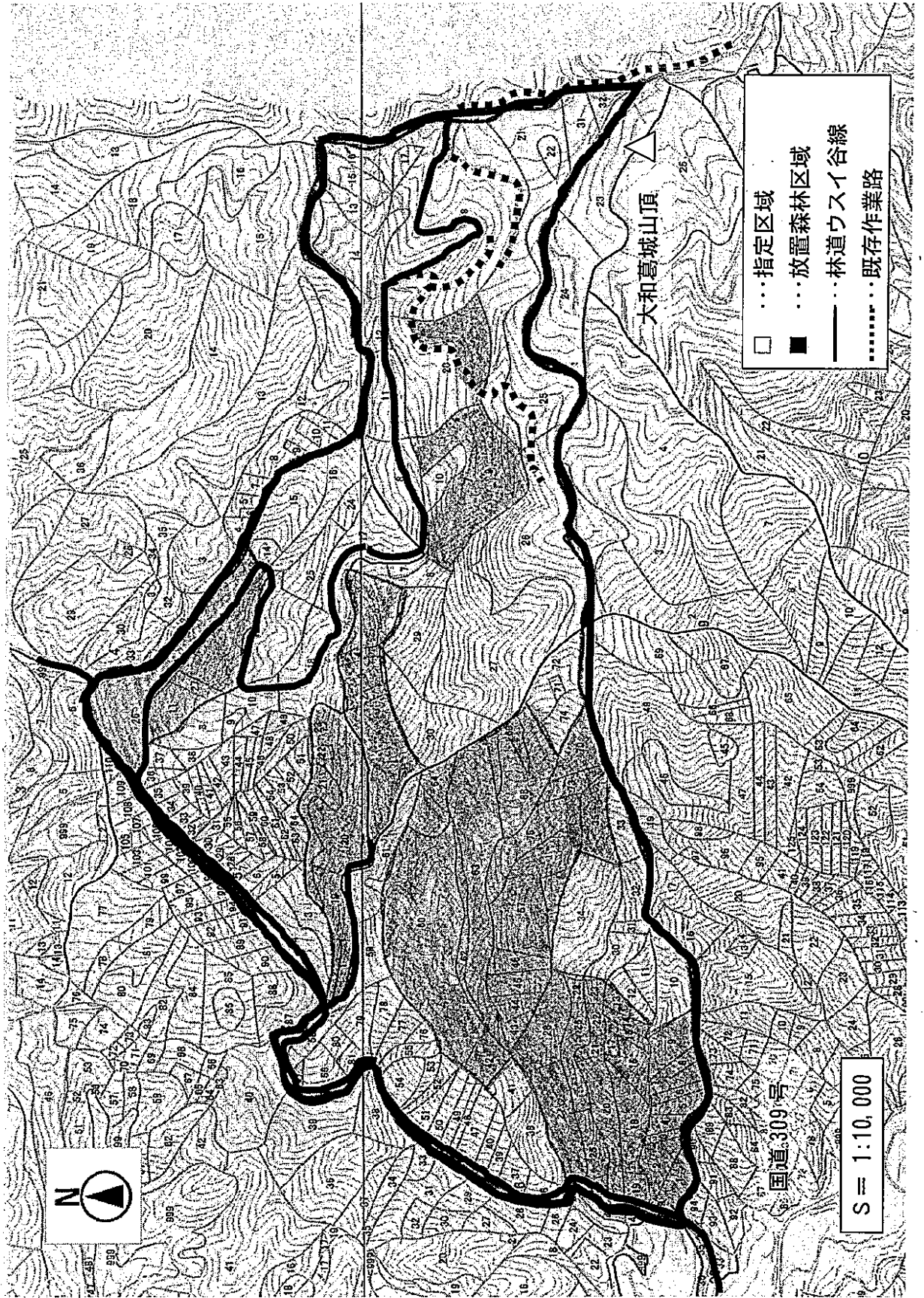
○指定区域図及び放置森林区域図

○位置図



S = 1:50,000

○指定区域図及び放置森林区域図



番 号	2
市 町 村 名	千早赤阪村
地 区 名	水分・桐山ほか
指定年月日	平成24年3月28日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大 阪 府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 千早赤阪村水分、桐山ほか
- ・林班名 21, 22, 23, 24 林班
- ・区域面積 約242ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況 (主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など)
 - ・ 足谷川の流域に当たり、中央に林道足谷線及び支線が通っている。西に楠木城とも呼ばれた上赤坂城址があり、尾根上には山城跡が点在している。尾根は金剛山への登山道として一般ハイカーの通行も見られる。
 - ・ 大部分がスギ・ヒノキの人工林で、一部の崩壊跡地周辺が二次林となっている。
 - ・ 人工林の大部分が高齢級のスギ・ヒノキで、下流には耕作放棄地への植栽とみられる若い森林も残る。全体を通して過去の手入れ跡はあるが長らく人が入らない林となっており、荒廃が進行しつつある。林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。
- ・ 地形特性 (標高、傾斜、方位 など)
 - 標高約 290m～900m
 - 南～北西向き斜面
 - 傾斜 30～50° 程度
- ・ 周辺状況 (集落・道路への近接度 など)
 - 金剛山の主尾根から分岐する支尾根に囲まれ、北は二河原辺の集落と接している。そのすぐ北は広域農道で、その先は千早赤阪村の中心部である水分～森屋の集落となる。10分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
 - 谷から尾根までの距離が短く、中央の足谷林道・支線を通して材の搬出が容易な場所が多い。
- ・ 地域指定等の状況 (公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など)
 - 公園：なし 近緑：なし 保安林：一部あり 山災危険地区：あり
 - 森林機能評価：水土保持林

2 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に5～20 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっている。木の成長は比較的良いが、近年手入れが十分されておらず、林内が暗く下層植生も乏しい箇所が多く、小さな崩壊地が点在するなど、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

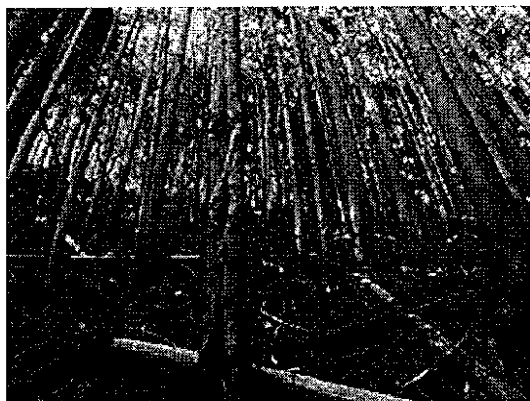
① 森林整備の基本的な考え方

- ・林道足谷線沿いはかつては良好に管理されていたと考えられるが、一部補助造林事業により細々と施業が続いている他は、放置され荒廃しつつある。奥地の一部は谷毎に崩壊し、二次林と人工林が交互に現れる。
- ・現在は主に小径材が搬出されているが、林分は成熟しつつあり、手入れによって大径材生産が可能である。
- ・下流には集落があるため、急傾斜の山地を保全し、山地災害の防止と木材生産機能の両立を目的として、スギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。

② 森林整備の推進方策

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業等の造林補助金や公的事業を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真

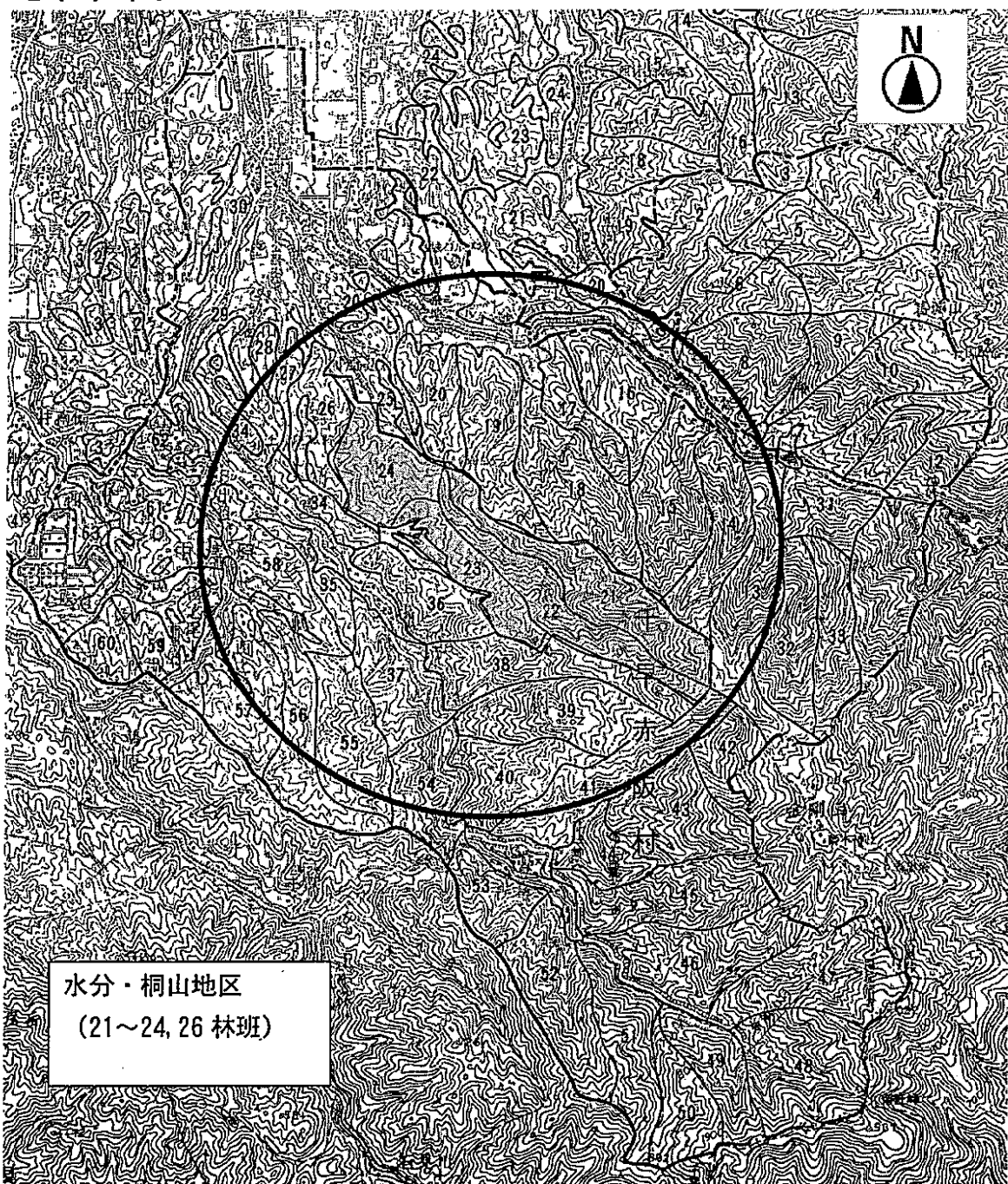


(添付図面)

○位置図

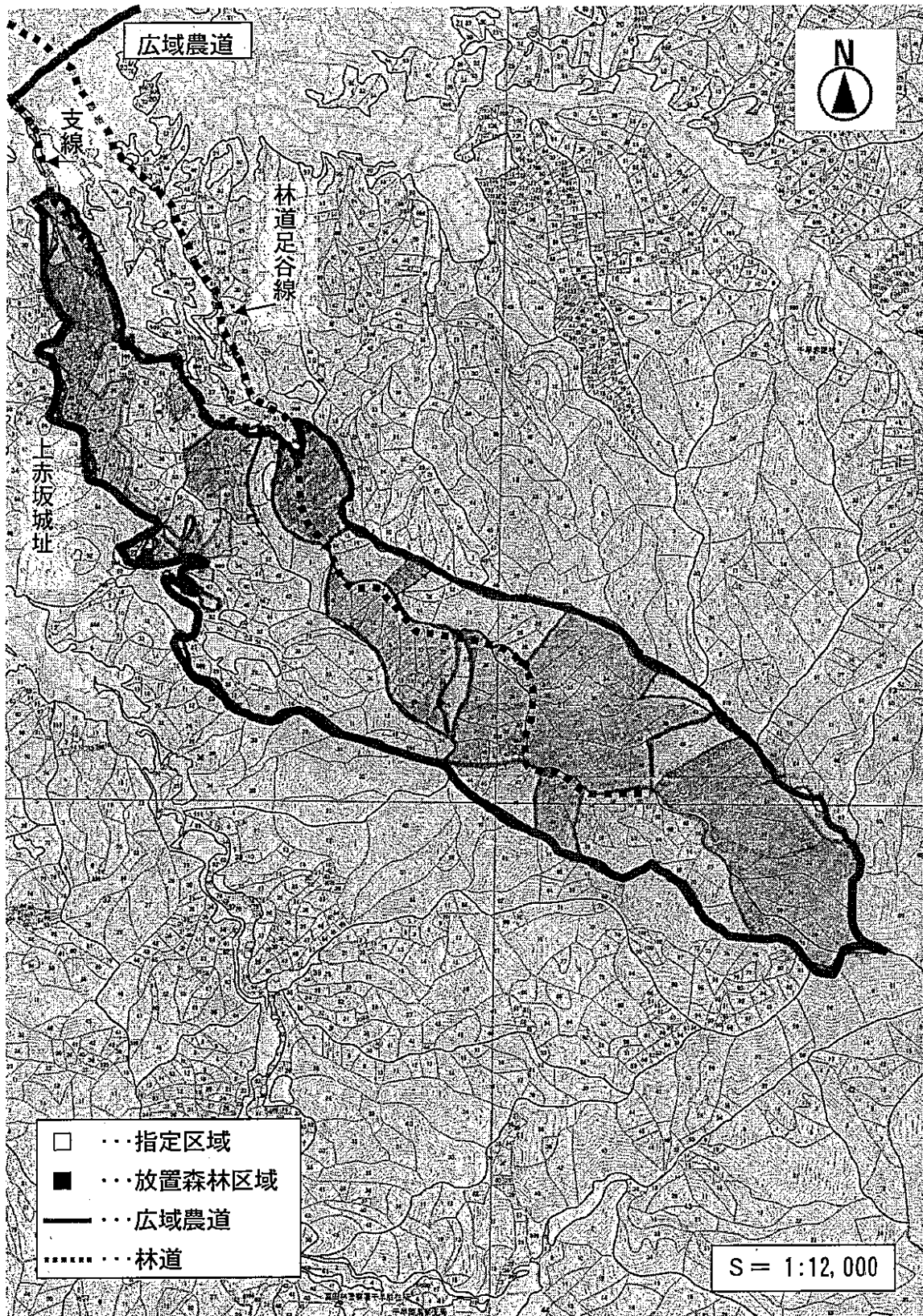
○指定区域図及び放置森林区域図

○位置図



指定区域図及び放置森林区域図

S = 1:50,000



市町村名	千早赤阪村
地区名	千早
指定年月日	平成24年3月28日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大阪府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 千早赤阪村千早
- ・林班名 40, 41, 42, 43, 44林班
- ・区域面積 約242ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況 (主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など)
 - ・ 金剛山北西の黒桐谷流域に当たり、南は千早本道に接し、中央に林道長谷線及びその支線の長谷足谷線が通る。
 - ・ フロノ谷、ツツラ尾谷、カトラ谷、黒桐谷など金剛山の主要な谷を擁し、特に千早本道は千早城址を通り金剛山頂までのメインハイキング道であって、関西で最もハイカーが多い地域でもある。
 - ・ ほぼ全面がスギ・ヒノキの人工林で、崩壊地に二次林の侵入がみられる。
 - ・ 人工林の大部分が高齢級のスギ・ヒノキで、急峻な地形もあって長らく人が入らない林となっており、荒廃が進行しつつある。林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。崩壊や土石流もみられる。
- ・ 地形特性 (標高、傾斜、方位 など)
 - 標高約 370m～970m
 - 北西～南西斜面
 - 傾斜 30～55° 程度
- ・ 周辺状況 (集落・道路への近接度 など)
 - 金剛山の主稜線のひとつであり、大阪・奈良の府県境より集落までの谷筋である。最下流で府道富田林五條線に接している。林道長谷線から府道を利用して材の搬出が可能である。途中広域農道を経て15分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
- ・ 地域指定等の状況 (公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など)
 - 公園：あり 近緑：あり 保安林：一部あり 山災危険地区：あり
 - 森林機能評価：水土保全林

2 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に3～19 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっている。長らく放置状態になっており、一部は登山道の整備ボランティアが木材利用のために伐採していたが、大半の林内は暗く、下層植生も乏しい又はまったく見られない箇所も多く、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

① 森林整備の基本的な考え方

- ・治山と合わせての森林整備によって良好な林分に転換し、保水力及び土壌支持力の高い健全な森林を育成することが望ましい。
- ・一部の成熟林においては、自力又は補助事業等の導入で手入れすることによって、大径材生産が可能である。
- ・下流には府道及び集落があるため、急傾斜の山地を保全し、山地災害の防止と木材生産機能の両立を目的として、スギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。

② 森林整備の推進方策

- ・治山事業、造林補助事業等を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真

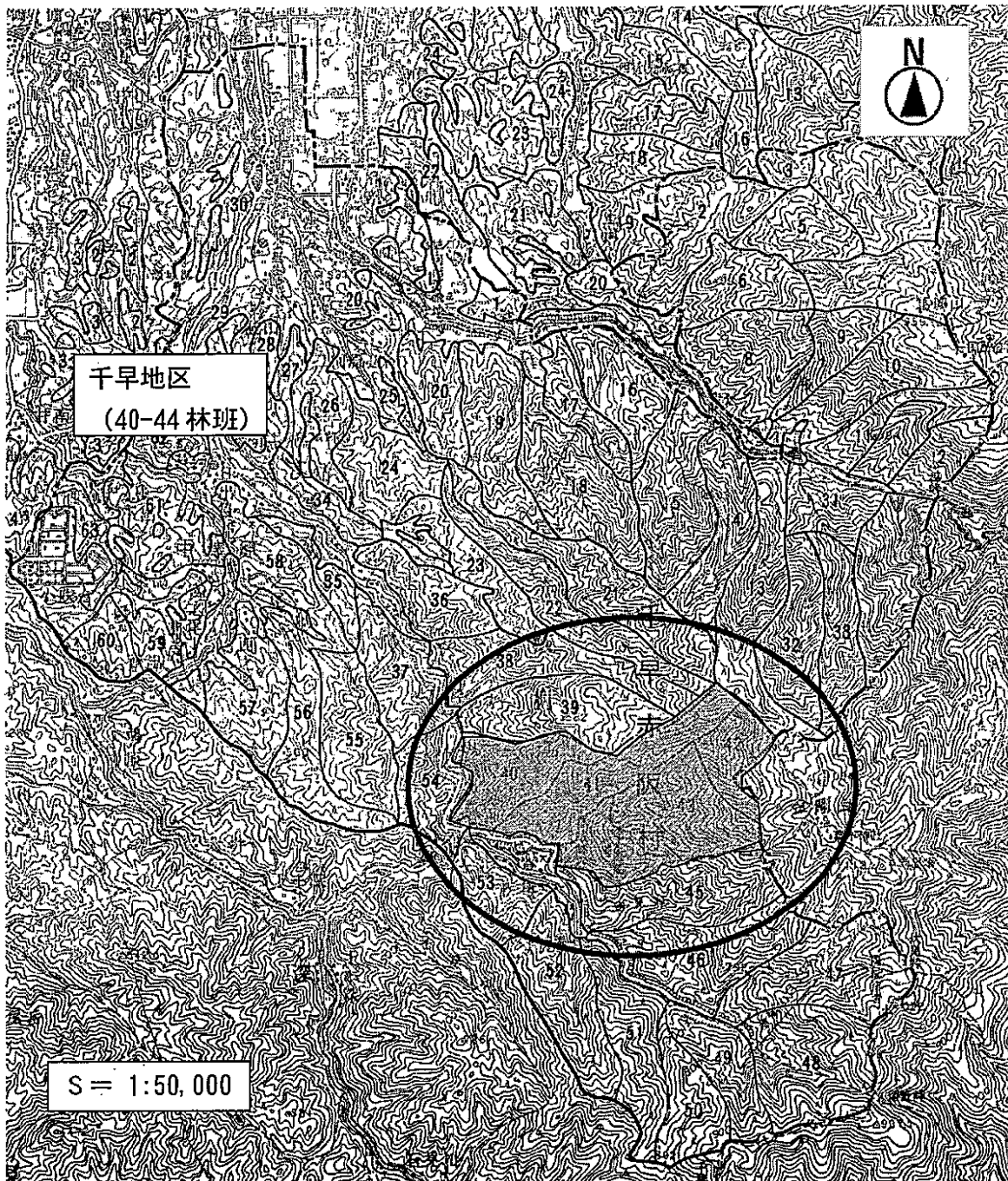


(添付図面)

○位置図

○指定区域図及び放置森林区域図

○位置図



番 号	4
市 町 村 名	太子町
地 区 名	山田
指定年月日	平成24年6月26日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大 阪 府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 太子町山田
- ・林班名 16林班
- ・区域面積 約40ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況 (主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など)
 - ・ 太子町の北東部に位置し、南側に国道166号が接しており、二上山への登山道が区域の中央にある。区域の7割程度がスギ・ヒノキの人工林となっている。
 - ・ 過去には丁寧に手入れされていたと思われるが、近年の木材価格の低迷により放置林化が進んでいる。谷部では風倒木等が放置されたままとなっている。林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。
- ・地形特性 (標高、傾斜、方位 など)
 - 標高約200m～470m
 - 西～南向き斜面
 - 傾斜 30～45°程度
- ・周辺状況 (集落・道路への近接度 など)
 - 南側の国道沿いに万葉の森駐車場や釣り池、レストランがあり、二上山への登山客が多く利用している。区域内の中央部に作業路が頂上まで通じており材の搬出に活用が可能である。国道から広域農道を経て40分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
- ・地域指定等の状況 (公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など)
 - 公園：あり 近緑：あり 保安林：なし 山災危険地区：一部あり
 - 森林機能評価：水土保持林

2. 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に5～14 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっている。木の成長は比較的良いが、近年手入れが十分されておらず、林内が暗く下層植生も乏しい箇所が多いことから、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

① 森林整備の基本的な考え方

- ・山地災害の防止及び木材生産を目的とし、スギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。
- ・林分は成熟しつつあり、大径材生産が可能なため安定した搬出間伐による長伐期施業を目指す。
- ・大規模な林道の設置はせず、既存の作業路を利用し、収入間伐を目標とする。

② 森林整備の推進方策

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業等の造林補助金や公的事業を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真



(添付図面)

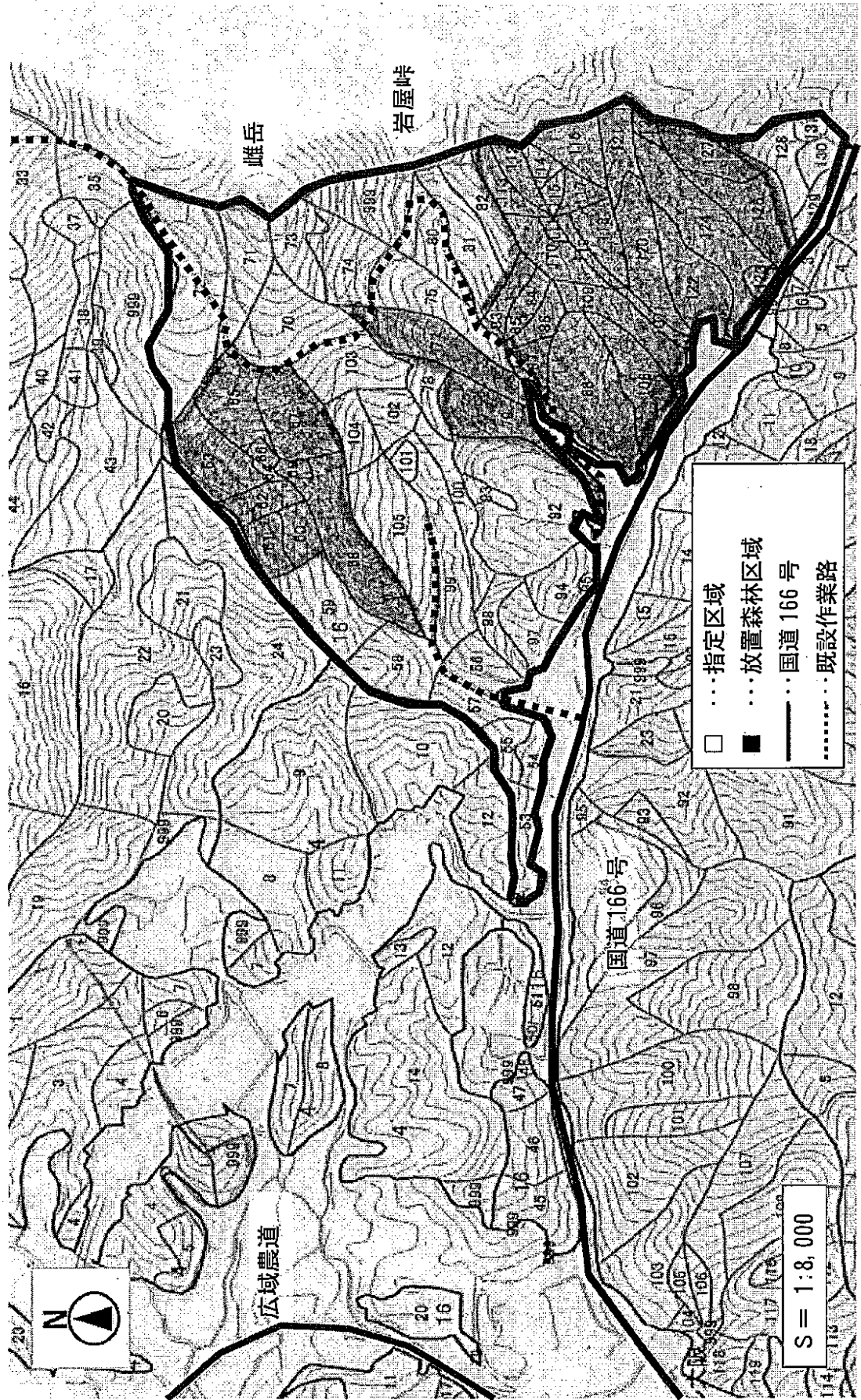
○位置図

○指定区域図及び放置森林区域図

○位置图



○指定区域図及び放置森林区域図



番 号	5
市町村名	河内長野市
地区名	岩瀬・神ヶ丘
指定年月日	平成24年6月26日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大阪府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 河内長野市岩瀬、神ヶ丘
- ・林班名 A1, A2, A3, W3 3, W3 4 林班
- ・区域面積 約150ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況 (主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など)
 - ・河内長野市の北東部に位置し、北側に府道河内長野千早城址線、南側に広域農道、西側は美加の台住宅地に囲まれている。区域の8割程度がスギ・ヒノキの人工林となっている。南側では一部竹林の侵入も見られる。
 - ・過去には丁寧に手入れされていたと思われるが、近年の木材価格の低迷により放置林化が進んでおり、谷筋の一部では風倒木等が放置されたままとなっている。林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。
- ・地形特性 (標高、傾斜、方位 など)
 - 標高約160m～380m
 - 南～北向き斜面
 - 傾斜 30～50° 程度
- ・周辺状況 (集落・道路への近接度 など)
 - 区域の北側、南側は府道と広域農道に接しており、区域内には北側に林道長峯線が開設されている。道路に面した斜面では直接、材の搬出も可能である。広域農道を経て30分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
- ・地域指定等の状況 (公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など)
 - 公園：なし 近緑：なし 保安林：一部あり 山災危険地区：一部あり
 - 森林機能評価：水土保持林、資源の循環利用林

2 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に10～14 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっており、また、谷筋の一部では風倒木も見受けられる。全体的に木の成長は比較的良いが、近年手入れが十分されておらず、林内が暗く下層植生も乏しい箇所が多く、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

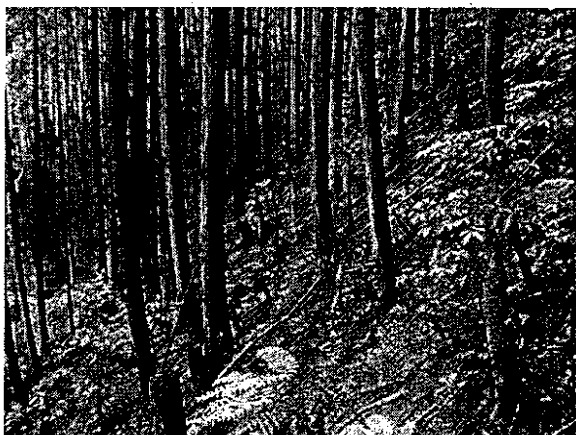
① 森林整備の基本的な考え方

- ・山地災害の防止及び木材生産を目的とし、スギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。
- ・林分は成熟しつつあり、大径材生産が可能なため安定した搬出間伐による長伐期施業を目指す。
- ・大規模な林道の設置はせず、北部の府道や南部の広域農道を利用し、収入間伐を目標とする。

② 森林整備の推進方策

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業等の造林補助金や公的事業を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真

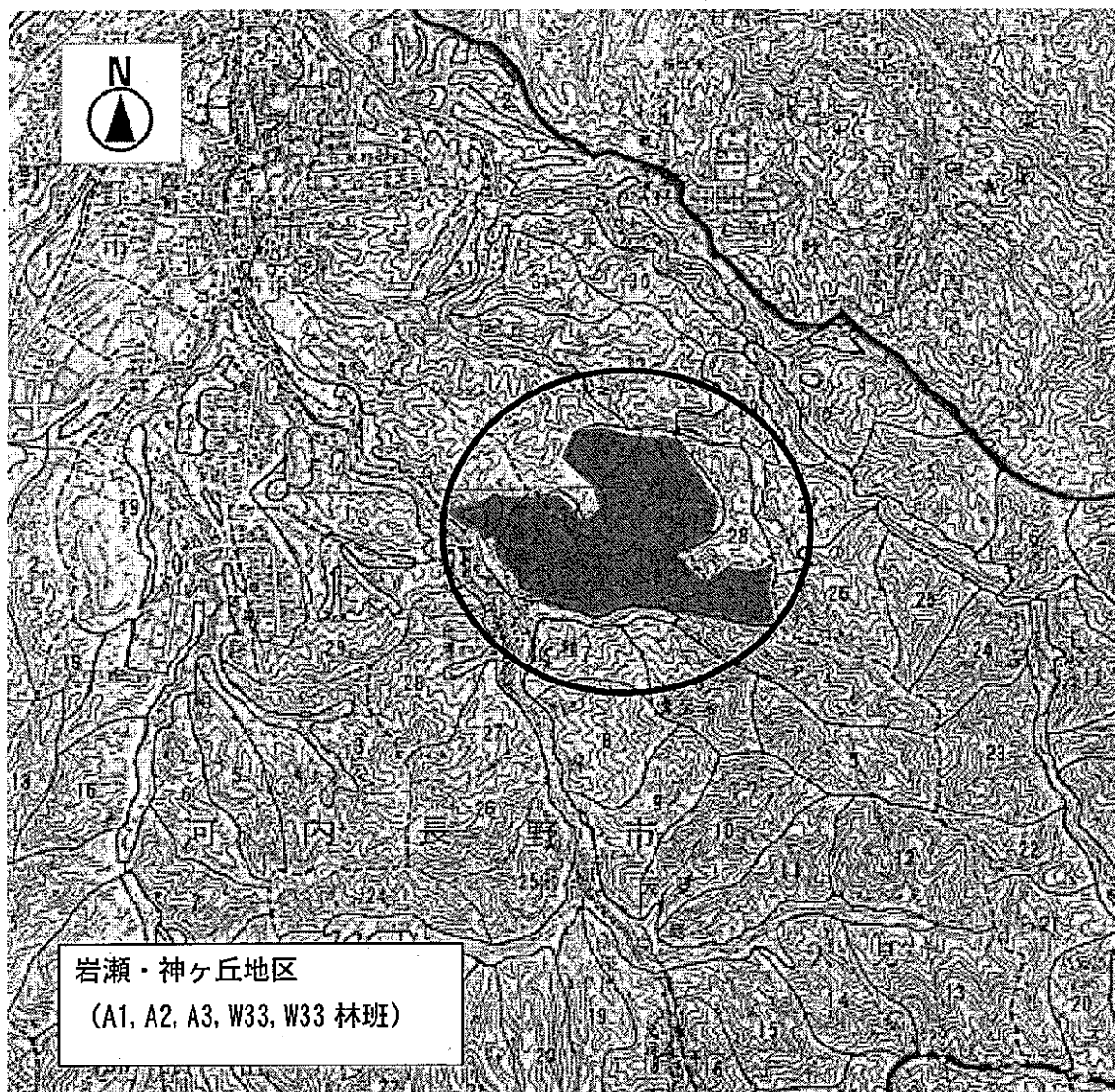


(添付図面)

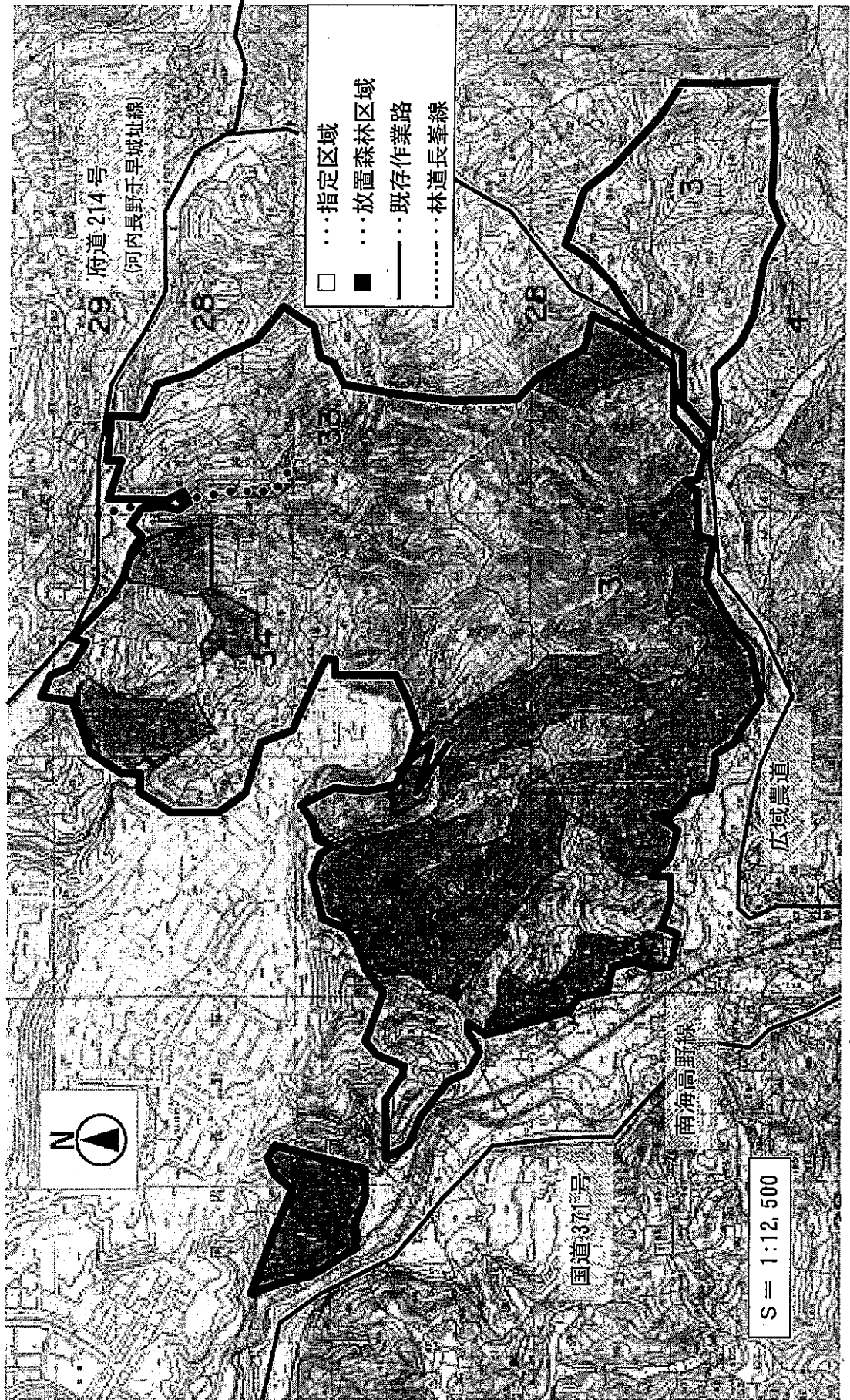
○位置図

○指定区域図及び放置森林区域図

○位置図



○指定区域図及び放置森林区域図



番 号	6
市 町 村 名	河内長野市
地 区 名	岩瀬
指定年月日	平成24年6月26日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大 阪 府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 河内長野市岩瀬
- ・林班名 A5, A6, A7 林班
- ・区域面積 約140ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況 (主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など)
 - ・河内長野市の東部に位置し、区域の北側は広域農道、林道才ノ神線に接しており、全体の7割程度がスギ・ヒノキの人工林となっている。下流部の西側では、広葉樹林が点在し、一部竹林の侵入も見られる。
 - ・東部は保安林指定が多く、過去には造林補助事業などにより丁寧に手入れされていたと思われるが、近年の木材価格の低迷により放置林化が進んでいる。林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。
- ・地形特性 (標高、傾斜、方位 など)
 - 標高約190m～650m
 - 北向き斜面
 - 傾斜 30～45° 程度
- ・周辺状況 (集落・道路への近接度 など)
 - 北側は広域農道と林道才ノ神線に接しており、国道371号へアクセスしている。北側の道路に面した斜面では直接搬出が可能である。西側の下流部に岩瀬集落と南海高野線が近接している。広域農道を経て20分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
- ・地域指定等の状況 (公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など)
 - 公園：なし 近緑：なし 保安林：一部あり 山災危険地区：一部あり
 - 森林機能評価：水土保持林

2 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に5～15 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっている。木の成長は比較的良いが、近年手入れが十分されておらず、林内が暗く下層植生も乏しい箇所が多いことから、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

① 森林整備の基本的な考え方

- ・下流部には集落や南海高野線があるため、急斜面の山地を保全し、山地災害の防止及び木材生産を目的としたスギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。
- ・林分は成熟しつつあり、大径材生産が可能なため安定した搬出間伐による長伐期施業を目指す。
- ・大規模な林道の設置はせず、北部の広域農道や林道オノ神線を利用し、収入間伐を目標とする。

② 森林整備の推進方策

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業等の造林補助金や公的事業を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真

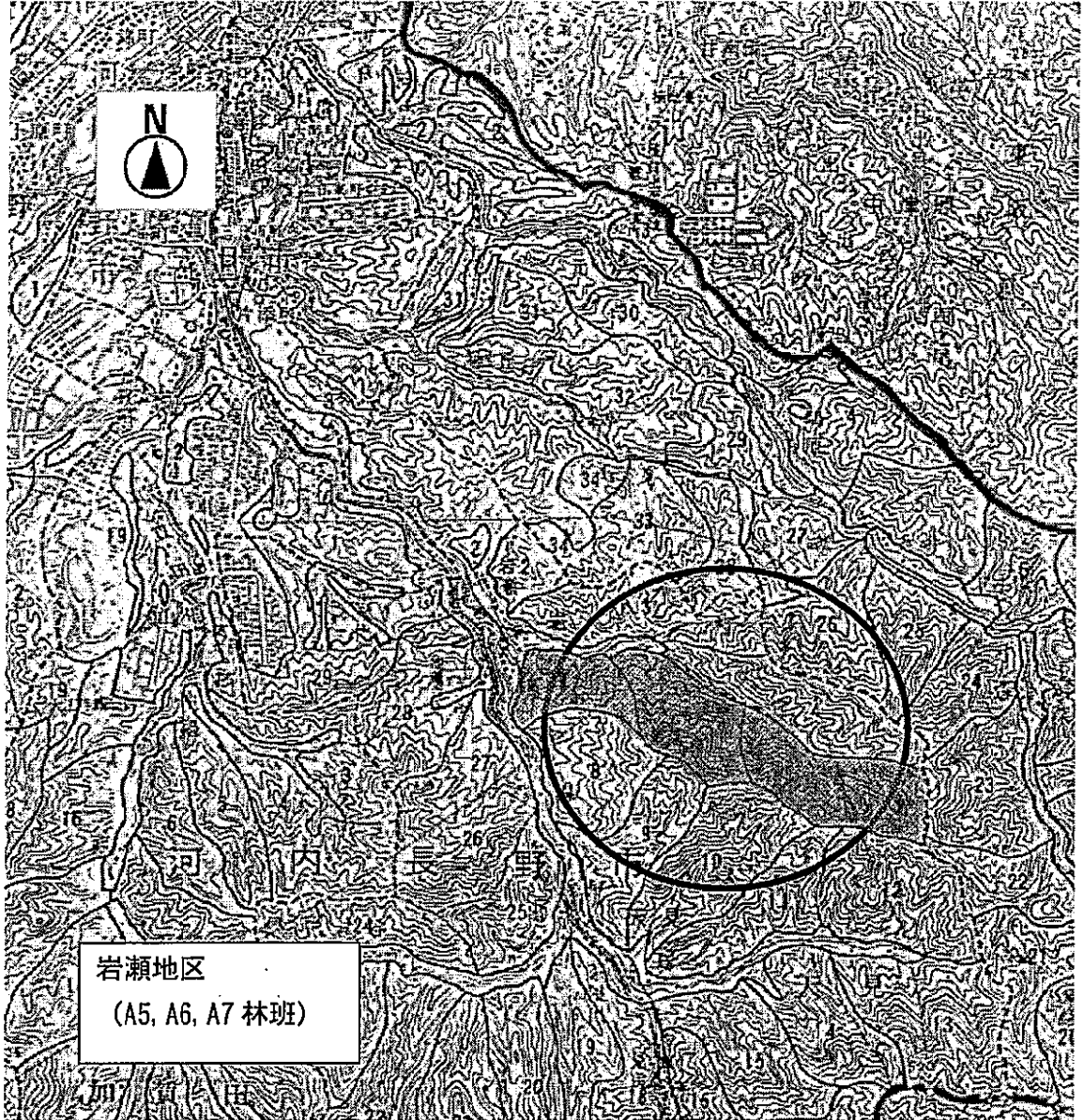


(添付図面)

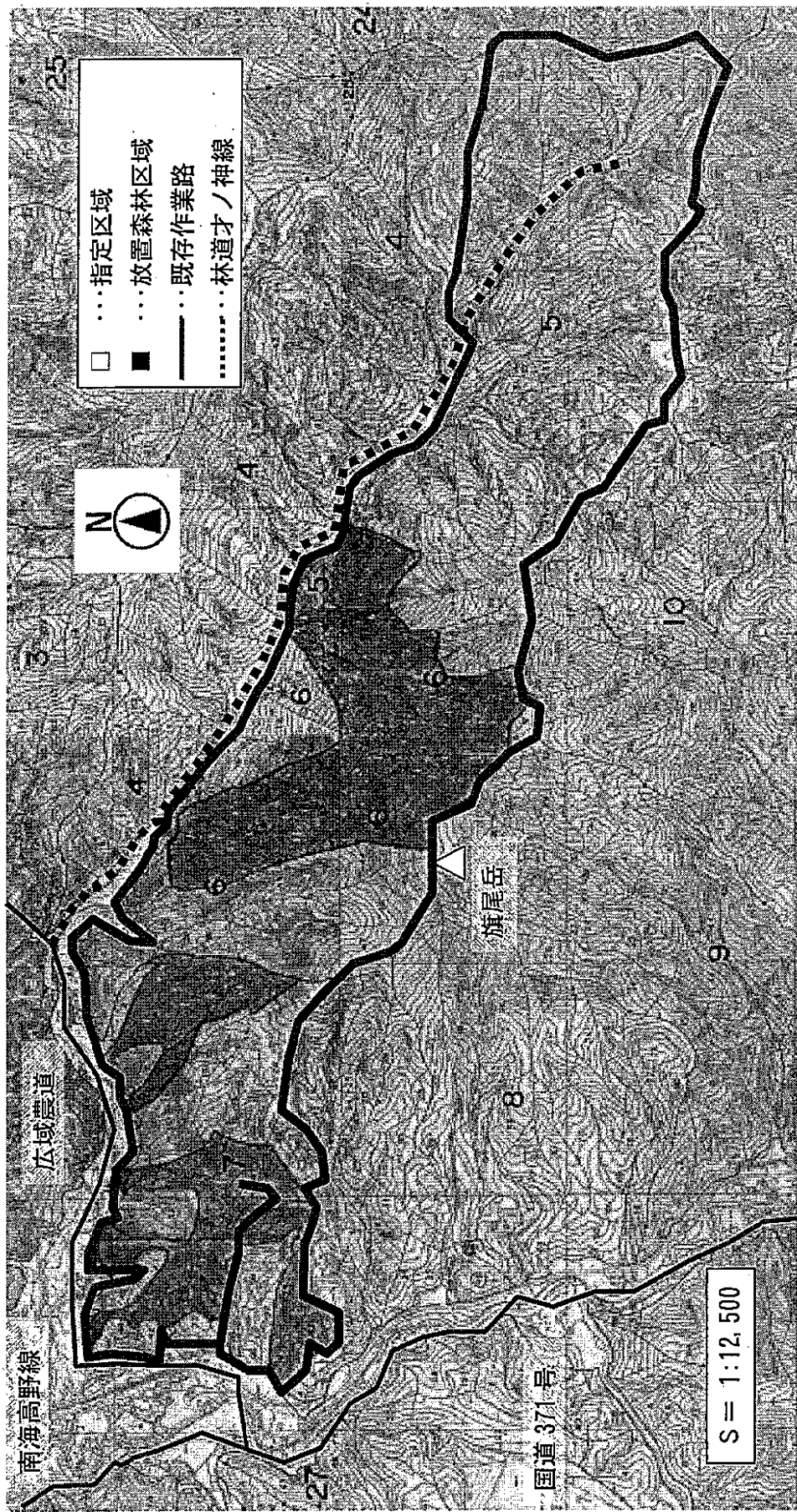
○位置図

○指定区域図及び放置森林区域図

○位置図



○指定区域図及び放置森林区域図



番 号	7
市 町 村 名	河内長野市
地 区 名	天見（島の谷）
指定年月日	平成24年6月26日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大 阪 府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 河内長野市天見（島の谷）
- ・林班名 A11, A12, A13, A14, A15 林班
- ・区域面積 約320ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況（主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など）
 - ・河内長野市の南東部に位置し、区域の中心に市道と林道島の谷線が東西に通っているまとまった一流域。区域の6割程度がスギ・ヒノキの人工林となっている。広葉樹林がモザイク状に点在し、一部竹林の侵入も見られる。
 - ・林道から北側は自力による手入れがされているが、南側は手入れ遅れが進行しつつあり、早期の間伐により健全な森林に戻る可能性が高い。
 - ・手入れの遅れた森林の林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。
- ・地形特性（標高、傾斜、方位 など）
 - 標高約240m～750m
 - 南～北向き斜面
 - 傾斜 30～50°程度
- ・周辺状況（集落・道路への近接度 など）

西側に国道371号と南海高野線があり、国道から区域の中心部に市道が通じその延長に林道島の谷線が通っている。市道、林道沿いに集落と農地が点在しており林道は流域の最奥部で終点となっている。国道から広域農道を経て30分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
- ・地域指定等の状況（公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など）
 - 公園：あり（林道の南側） 近緑：あり（林道の南側） 保安林：一部あり
 - 山災危険地区：一部あり 森林機能評価：水土保持林

2 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に6～15 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林。尾根沿いにアカマツ林と雑木林が点在している。
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっている。木の成長は比較的良いが、近年手入れが十分されておらず、林内が暗く下層植生も乏しい箇所が多いことから、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

① 森林整備の基本的な考え方

- ・林道沿いに集落、農地があるため、山地を保全し、山地災害の防止及び木材生産を目的としたスギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。
- ・林分は成熟しつつあり、大径材生産が可能なため安定した搬出間伐による長伐期施業を目指す。
- ・大規模な林道の設置はせず、区域中心の林道島の谷線を利用し、収入間伐を目標とする。

② 森林整備の推進方策

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業等の造林補助金や公的事業を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真

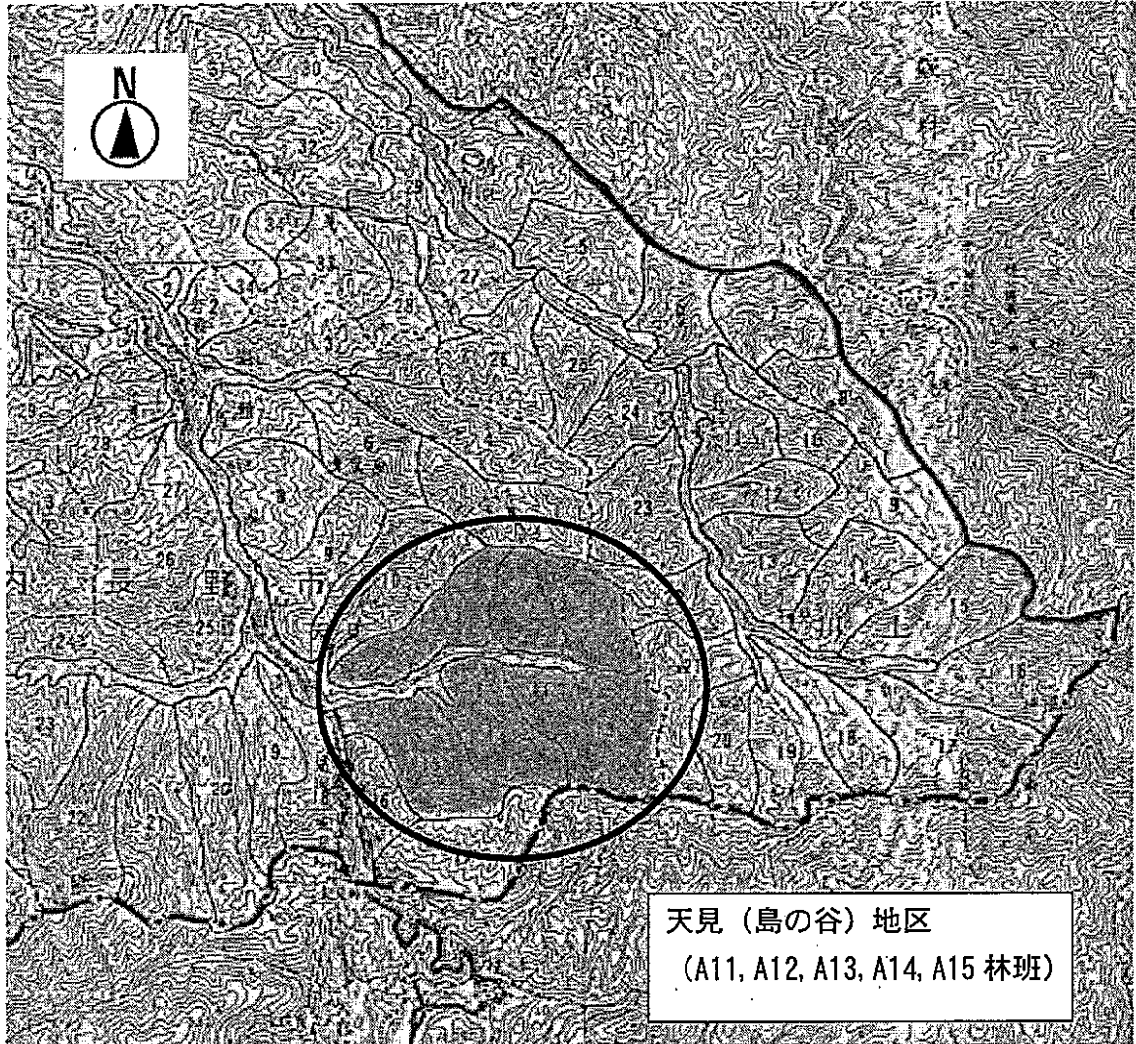


(添付図面)

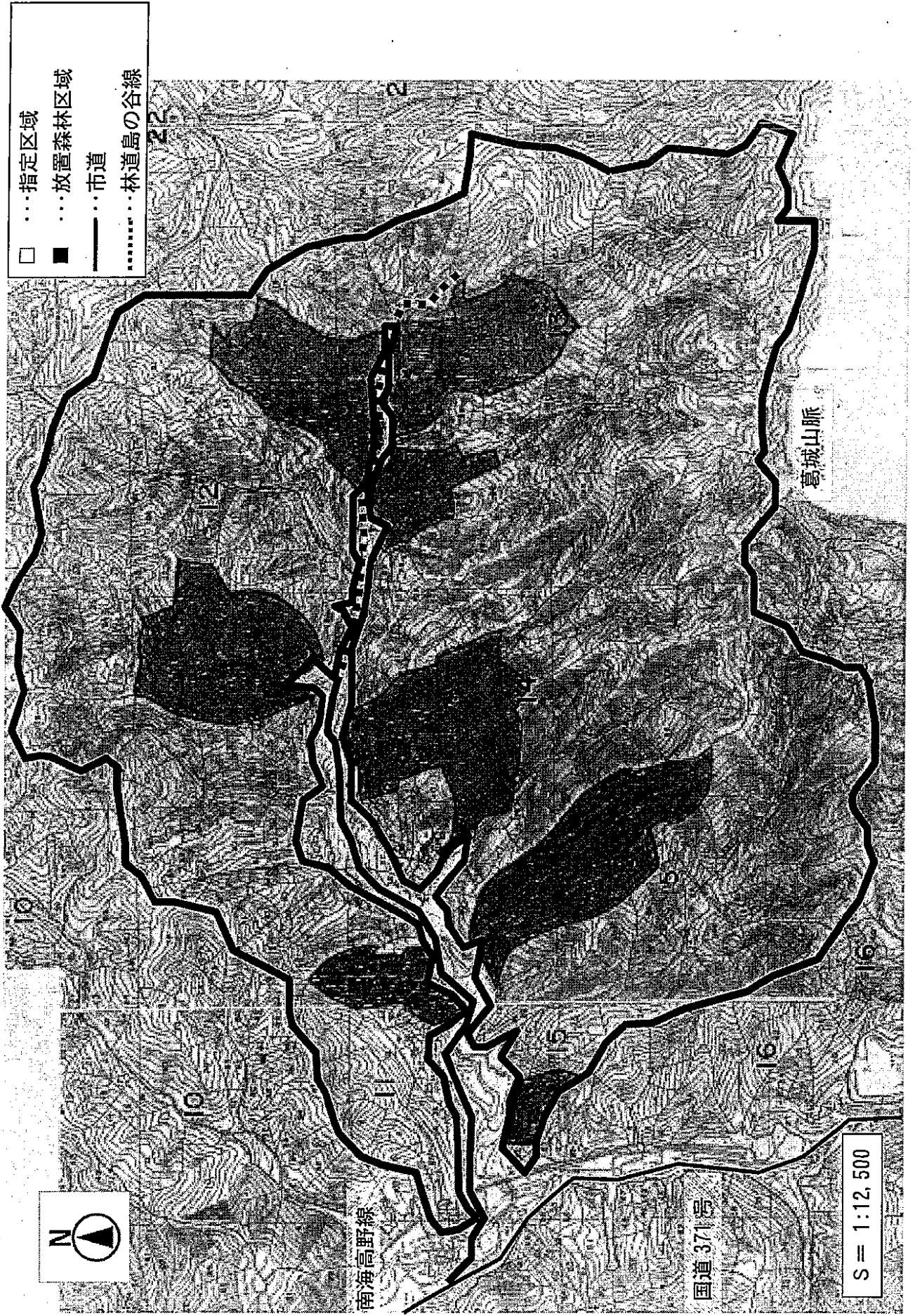
○位置図

○指定区域図及び放置森林区域図

○位置図



○指定区域図及び放置森林区域図



番 号	8
市 町 村 名	河内長野市
地 区 名	天見（流谷）
指定年月日	平成24年6月26日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大 阪 府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 河内長野市天見（流谷）
- ・林班名 A19, A20, A21, A22, A23 林班
- ・区域面積 約 330 ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況 （主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など）
 - ・ 河内長野市南部の和歌山県境に位置し、区域の北側にある市道、林道流谷線、南側の葛城山脈で囲まれた流域であり、区域の9割程度がスギ・ヒノキの人工林となっている。
 - ・ 林道が南北の谷ごとにほぼ開設されているため、林道沿いは過去から手入れがなされているが、区域の西部や標高の高い箇所では手入れ遅れが進行しつつある。早期の間伐により健全な森林に戻る可能性が高い。
 - ・ 全域的に、高齢級に移行しているが木材価格の低迷により放置林化が進んでいる。林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。
- ・地形特性（標高、傾斜、方位 など）
 - 標高約 240m～750m
 - 東～西向き斜面
 - 傾斜 30～45° 程度
- ・周辺状況（集落・道路への近接度 など）

北東側の国道 371 号から、区域の北側部分を市道と林道流谷線が接して通っており、道路沿いに集落と農地がある。区域内は、南北に短冊状の谷があり、ほぼ谷筋に沿って林道が開設されている。国道から広域農道を経て 30 分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
- ・地域指定等の状況（公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など）
 - 公園：あり 近緑：あり 保安林：一部あり 山災危険地区：一部あり
 - 森林機能評価：水土保持林

2 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に7～16 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林。
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっている。木の成長は比較的良いが、近年手入れが十分されておらず、林内が暗く下層植生も乏しい箇所が多いことから、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

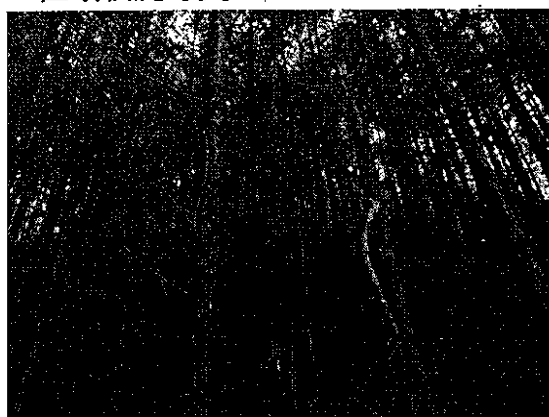
① 森林整備の基本的な考え方

- ・北側の道路沿いに集落、農地があるため、山地を保全し、山地災害の防止及び木材生産を目的としたスギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。
- ・林分は成熟しつつあり、大径材生産が可能なため安定した搬出間伐による長伐期施業を目指す。
- ・既存の林道を活用し、比較的広い場所での土場の設置、小型トラックによる搬出により、近接した木材製材所及び共販所に出材する。

② 森林整備の推進方策

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業等の造林補助金や公的事業を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真

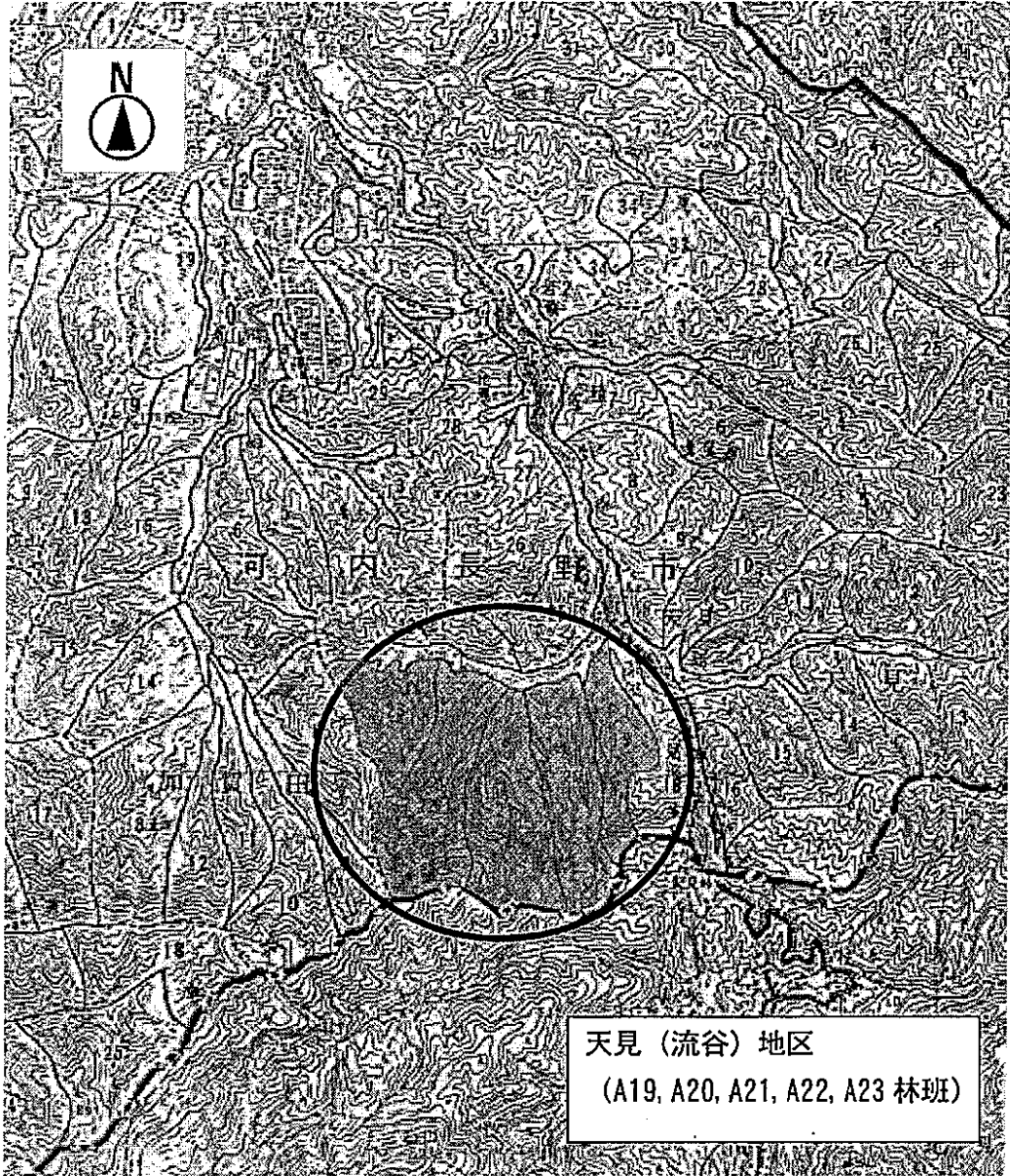


(添付図面)

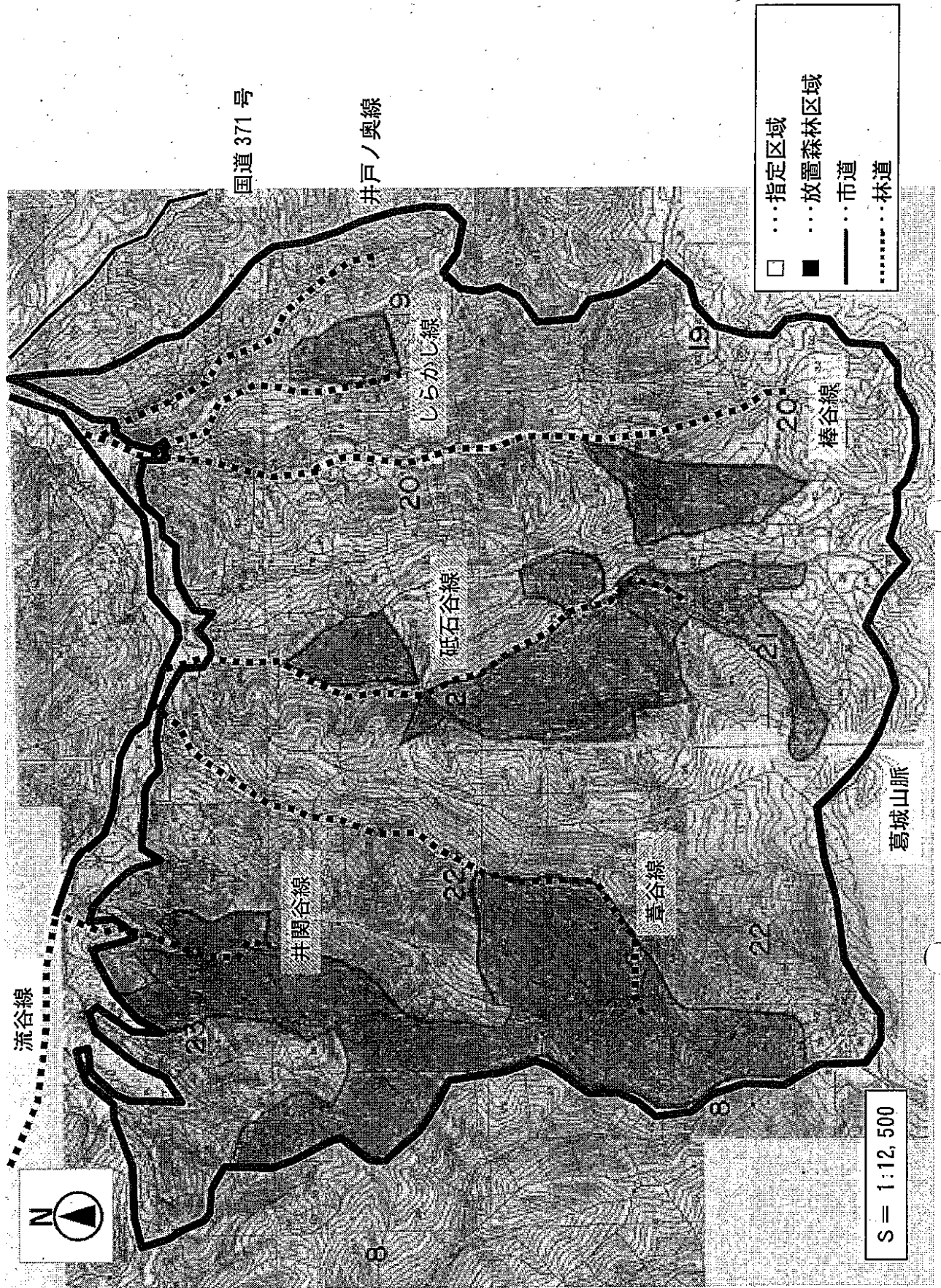
○位置図

○指定区域図及び放置森林区域図

○位置図



○指定区域図及び放置森林区域図



番 号	9
市 町 村 名	河内長野市
地 区 名	加賀田
指定年月日	平成24年6月26日

森林機能再生重点地域 森林整備方針（案）

平成25年2月

大 阪 府

1 指定対象地域の状況

(1) 指定区域

- ・所在地 河内長野市加賀田
- ・林班名 G7, G14 林班
- ・区域面積 約100ha
- ・指定の範囲 別添「指定区域図」のとおり

(2) 指定対象地域の概況

- ・林況 (主要樹種・林齢、人・天別、管理・利用状況 など)
 - ・河内長野市のほぼ中心部に位置し、区域の中央を府道が通る区域。8割程度がスギ・ヒノキの人工林となっており、南部の標高が高い箇所に広葉樹林が点在している。
 - ・人工林の大部分が高齢級に移行するスギ・ヒノキで、過去には丁寧に手入れされていたと思われるが、近年の木材価格の低迷により放置林化が進んでいる。早期の間伐により健全な森林に戻る可能性が高い。
 - ・林内は薄暗く、下層植生もまばら、もしくはあまり見られないところが多い。
- ・地形特性 (標高、傾斜、方位 など)
 - 標高約 230m～620m
 - 北西～南東向き斜面
 - 傾斜 30～50° 程度
- ・周辺状況 (集落・道路への近接度 など)
 - 府道加賀田片添線が中心部を南北に通っており、道路沿いに集落と農地がある。府道の南部終点からは林道で岩湧寺へ通じており、北側は広域農道に近接している。府道から広域農道を経て40分程度の距離に大阪府森林組合の木材共販所がある。
- ・地域指定等の状況 (公園、近緑、保安林、山災危険地区、森林機能評価 など)
 - 公園：一部あり (南側) 近緑：一部あり (南側) 保安林：一部あり
 - 山災危険地区：一部あり 森林機能評価：水土保全林

2 指定地域内の放置森林の状況

(1) 放置森林の位置

別添「放置森林区域図」のとおり

(2) 放置森林の林況

- ・主に6～10 齢級のスギ・ヒノキ中心の人工林。南側の標高が高い箇所にアカマツ、クヌギの広葉樹林が点在している
- ・高密度植栽のため、過去には手入れされていたがその後放置され、過密林分となっている。木の成長は比較的良いが、近年手入れが十分されておらず、林内が暗く下層植生も乏しい箇所が多いことから、早期の間伐が必要である。

3 森林整備方針

① 森林整備の基本的な考え方

- ・中央の府道沿いに集落、農地があるため、山地を保全し、山地災害の防止及び木材生産を目的としたスギ・ヒノキの間伐を行い、健全な人工林の育成を図る。
- ・林分は成熟しつつあり、大径材生産が可能なため安定した搬出間伐による長伐期施業を目指す。
- ・既存の林道を活用し、架線等による搬出を行い、近接した木材製材所及び共販所に出材する。

② 森林整備の推進方策

- ・森林整備加速化・林業再生基金事業等の造林補助金や公的事業を導入し、早期に間伐を行う。

4 区域状況写真

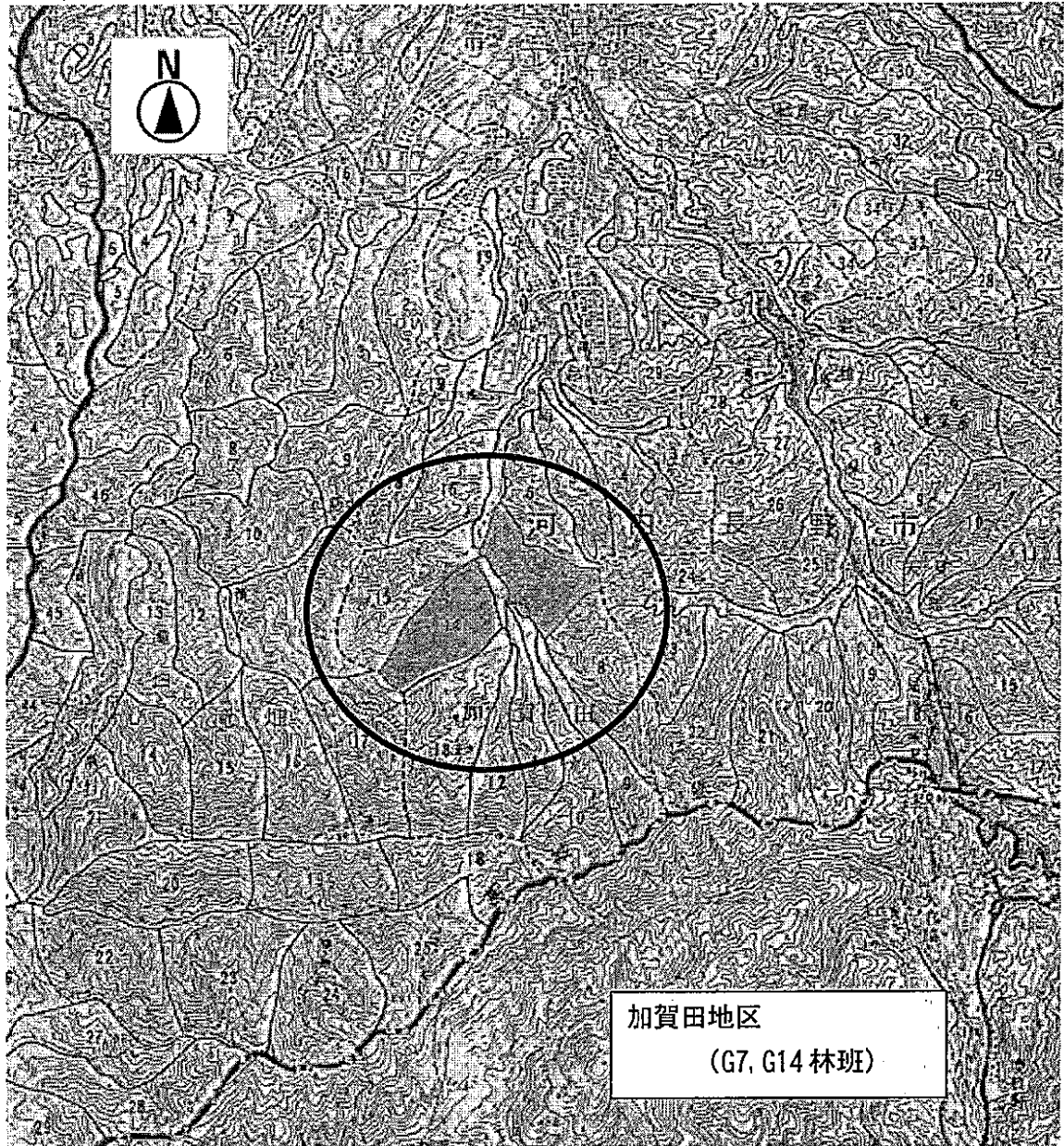


(添付図面)

○位置図

○指定区域図及び放置森林区域図

○位置図



○指定区域図及び放置森林区域図

